

一般社団法人
北海道日中経済友好協会
平成28年度

友好 ヨーハオ

2016年5月20日発行

発行者

〒001-0020 札幌市北区北20条西5丁目2番50号

ロイヤルセーフティビル 2F

一般社団法人 北海道日中経済友好協会

会長 中田 博幸

(TEL) 707-0030 (FAX) 707-0035

中国・浙江省で日本語スピーチコンテストを開催

第13次中国経済視察団

第13次中国経済視察団(中田博幸会長をはじめ13名が参加)は、2015年9月8日から13日までの6日間にわたり中国を訪問し経済視察と交流活動を実施しました。

とりわけ今年、一般社団法人北海道日中経済友好協会の設立30周年の節目の年にあたることから、設立30周年の記念事業として、9月11日中国浙江省杭州市の浙江商工大学講堂において、当協会が主催して「日本語スピーチコンテスト」を実施しました。コンテスト応募の対象は日本語学科に学ぶ大学生に限りましたが、100名以上の学生から応募があり、事前に成績優秀者10名に絞っての審査となりました。

スピーチコンテストのテーマは二つあり、ひとつは「あなたが日本語を学ぶ理由」、もうひとつは、その場で与える個別のテーマにより、視察団全員で審査をしました。

慎重審査の結果、第1位は女子学生の黄晨晨さん、第2位が男子学生の周孝誠さん(いずれも浙江商工大学日本語学科)のお二人が成績優秀者として選出されました。お二人の日本語能力は極めて高く、将来日中経済友好のかけがえのない人材となることはまちがいないことでしょう。

なお、お二人には褒章として2016年1月16日から30日の2週間日本にご招待をし、北海道の企業数社でインターシップ研修を体験していただいています(詳細後掲)。



コンテスト参加者と視察団一行と記念撮影
9月11日、浙江商工大学講堂

2015-16年度 協会の歩み

■2015年5月22日 定例総会を開催

札幌市中央区の札幌通運株式会社会議室において平成26年度一般社団法人北海道日中経済友好協会定例総会を開催しました(会員数101名、出席者(委任状含)74名)。

■2015年7月26日 チャリティーゴルフコンペを開催

ハッピーバレーゴルフクラブ(当別町)にて第15回中国総領事杯チャリティーゴルフコンペを開催しました。総領事館から高立仁領事の参加を賜り、総勢24名で親睦を深めました。当日のチャリティー金は15,200円で、全額留学生基金へ寄付されました。

■2015年8月3日 中国総領事館との交流の夕べを開催

中国駐札幌総領事館(札幌市中央区)において、孫振勇総領事をはじめ総領事館員とご家族らと当協会の親交を目的とした「交流の夕べ」を開催しました。また、あわせて中国からの留学生に対する支援事業により選考した留学生5名に対して奨学金の授与を行いました。参加者は57名でした。



奨学生と記念撮影(中央、孫振勇総領事)
8月3日、中国駐札幌総領事館

■2015年8月20日 東京華僑總商会と交流会を開催

東京華僑總商会の設立の設立記念事業として同会は北海道を訪問され、当協会会員企業とのビジネスチャンスや投資について可能性を探る交流の機会を設けました。

会場は札幌市中央区のホテルオークラ札幌で、参加者は60名でした。



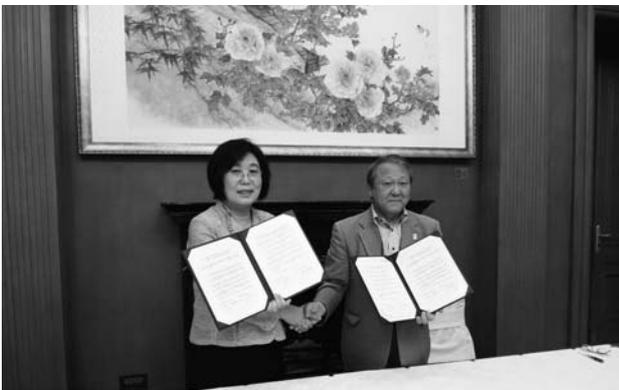
挨拶する東京華僑總商会蕭敬如会長
8月20日、ホテルオークラ札幌



■2015年9月8日～9月13日
第13次中国経済視察旅行を実施

当一般社団法人北海道日中経済友好協会の設立30周年を記念して中国経済視察訪問団を派遣しました。視察団一行は9月8日北京市の中日友好協会を訪問し、同協会の王秀雲副会長から丁寧な接遇を受けました。

さらに一行は9月11日中国・杭州において現地の大学生を対象とした日本語スピーチコンテストを開催しました。(内容は第1面に記載)。



握手を交わす王秀雲副会長(左)と田中博幸会長
9月8日、北京市日中友好協会

■2015年10月28日 留学生との交流会を開催

キャリアバンクセミナールーム(札幌市中央区)において、北海道在住の中国人留学生を対象とした、「中国人留学生の日本での就職」をテーマとしたセミナーを開催しました。当日は17名の留学生の参加があり、セミナー終了後は当協会員19名を交えた「交流夕食会」を開催しました。

■2015年12月24日
浙江省人民対外友好協会との交流会を開催

平成27年9月に浙江省杭州市で開催した「日本語スピーチコンテスト」で、現地にてご尽力をいただいた浙江省対外人民友好協会の一行7名(団長、余慧氏)が来道されました。交流会(会場は札幌市中央区「おたる亭」)には田中博幸

会長はじめ23名の協会員が出席し、スピーチコンテストでの御礼を申し上げるとともに、今後の交流継続のための意見交換をしました。

■2016年1月16日から30日
日本語スピーチコンテスト優秀者2名来道

2015年9月に浙江省杭州市で開催した「日本語スピーチコンテスト」で、優秀な成績をおさめた、浙江商工大学日本語学科の学生の黄晨晨さんと周孝誠さんを北海道にお招きをし、会員企業でのインターシッププログラムを経験していただきました。同時に会員家庭でのホームステイの体験や歓迎会への参加もしていただき、中国の若者二名と将来の日中の交流あり方を語り合いました。

なお、周孝誠さんから北海道研修のレポートを寄せられています(後掲)。



札幌ビール園での交流会
1月16日、ホテルオークラ札幌

■2016年1月26日 新年恒例会を開催

札幌市中央区のノホテル札幌において、当協会の平成26年新年恒例会を開催しました。中国駐札幌総領事館からは孫振勇総領事と令夫人をはじめ3名の領事のご臨席を賜り、また協会からは理事および会員約48名が出席者しました。

新春の和やかな雰囲気の中で親しく交流を深めるとともに、留学生に対する後期の奨学金の贈呈式も挙行了しました。

公益財団法人似鳥国際奨学財団

代表理事 似鳥 昭雄 殿

平成27年度 中国私費留学生支援基金事業活動完了報告

北海道日中経済友好協会 会長 中田 博幸

平成27年度の「中国私費留学生支援基金」につきまして活動完了のご報告申し上げます。

平成27年8月3日午後6時より、札幌中国総領事館におきまして「中国総領事館との交流の夕べ」並びに「中国私費留学生奨学金授与式（前期分）」を行い、中国私費留学生支援基金からの今年度の奨学生5名に対し前期分の奨学金各30万円の授与を行いました。

交流会は孫総領事はじめ57名が出席して行われ孫総領事の挨拶に続き藤田特別顧問の祝杯で始まりしました。授与式では、当協会の中田博幸会長から本年度の奨学金は「公益財団法人似鳥国際奨学金財団」からの助成金を基に授与されますとの報告と謝辞の後、奨学金の応募者数が全道の大学より45名あり選考委員による成績・小論文の一次選考と面接・口頭試問の2次選考により本日の5名が選抜されたとの経過報告がなされました。

平成28年1月26日午後6時よりホテルノボテル札幌におきまして「中国領事館との新年交礼会」並びに「中国私費留学生奨学金授与式（後期分）」を行い、今年度の奨学生5名に対し後期分の奨学金各30万円の授与を行いました。

新年交礼会は孫総領事ははじめ48名が出席して行われ、孫総領事の挨拶に続き北海道銀行前頭取の藤田恒郎様の祝杯で始まりしました。授与式では中田博幸会長より前期分に続き後期分についても「公益財団法人似鳥国際奨学財団」か

らの助成金を基に贈呈されますとの報告と謝辞ののち、5名の留学生一人一人に奨学金が手渡されました。そののち、理事の滝沢俊行より今年度の応募者数が45名であり、また応募者が皆優秀で選考が大変難航したとの報告がなされました。5名の留学生の紹介ののち、一人ひとりの研究分野や日本に来た動機と将来の目標をスピーチしていただきました。

皆、日本の進んだ研究環境の中で学び将来は日本や北海道との橋渡し役として日中両国の為に貢献できる人材になりたいと抱負を語っていました。

今回は、奨学金60万円のうちの後期分30万円分を贈呈しましたのでこれにて前期分と後期分合わせて一人当たり計60万円、5名分で総計300万円の奨学金の授与が完了いたしました。

以上をご報告し御礼と助成事業の活動実施報告といたします。



中国私費留学生奨学金授与式 後期分

2016年1月26日
会場：ノホテル札幌（札幌市中央区）



中田会長挨拶及と謝辞 手前中央は孫振勇総幹事



奨学生と孫総領事・中田会長

平成27年度 中国私費留学生支援奨学金授与名簿

黄 宇驍	25歳	江蘇省出身	北海道大学大学院法学研究科修士2年
江 楠	23歳	黒竜江省出身	札幌大学文学部文化科4年生
田 雁竹	24歳	吉林省出身	北海道大学大学院水産科学院応用生命科学科修士1年
張 嘉航	24歳	遼寧省出身	北海道教育大学大学院教育研究科修士2年
張 楽樺	24歳	広東省出身	北海道大学大学院生命科学院生命システム科学コース修士1年

以上5名

留 学 生 の 主 張



黄 宇 驍

北海道大学大学院
法学研究科修士2年
25歳

現在の中国においては、公権力が急速に増大する一方、政府と私人との関係が悪化しつづけるばかりという状況になっている、と言うことができる。それは、法治主義という原則が未だに確立されていないことを示しているとともに、現状に対応できる理論と制度が欠けているのではないかと考えられる。そして、日本は西洋の近代的な思想と制度を東洋社会に取り入れて巧妙に結合し自国の発展を図るに世界において最も経験豊富な先進国と言える。我が国における様々な社会問題を解決するために、日本の制度および経験を学び参考にすることが決して不可欠であると信じている。

それゆえ、私は中学の頃からそのような思いを抱き、日本に関心を持つようになった。高校の時から、将来大卒後は日本に留学したく日本語の勉強も始めたのである。大学の時代には、中国のトップ校の一つである南京大学において法律学を選び、4年間勉強していた。すべての法律科目には興味があるが、その中にとくに公法、すなわち憲

法と行政法の魅力を発見し、私にとって最も意欲がある分野ではないかと考えていた。その結果、将来、公法の方向に力を入れて進んでいきたいと決心をつけたのである。

したがって、2013年の頃に南京大学の先生の推薦を受け、北海道大学大学院法学研究科に留学することにした。現在は、修士課程に在学し、「法治主義」並びに「法律による行政の原理」というテーマを中心に、日本及びドイツ公法の理論と判例を確実に勉強し研究を進めているところである。来年、博士課程にも進学する予定である。将来の進路については、優秀な成績と研究成果を持ち出し、帰国後大学の学者あるいは裁判所の裁判官(若しくは検察官)になりたいと考えている。そして、私一人の力は小さいが、自分のすべての知識及び才能を捧げ、母国である中国における法律制度の改革ないし発展に力を貢献したいと思っている。また、日中間の様々な問題を解決できるように、民間的な交流を増強することが非常に重要であると考え、将来は私も留学の経験を生かし日中友好のために全力を尽くしたいと思っている。

以上は私が留学に至る経緯であって、そして将来の予定である。人生は、自分のためのみに生きるのではなく、他人の幸福のために、より良い社会を実現するために生きるべきではないかと考え

ている。これは、私が小さい時から憧れてきた生き方でもある。そして、今後においてもこのような人生を送りたいと思っている。



江 楠

札幌大学

文学部文化科4年生

23歳

私は江楠と申します。2014年4月から日本に留学して、現在、札幌大学の文化学部、文化学科で勉強しています。

私は、日本語及び日本文化を勉強するために留学しました。中国の大学で、私は日本語専攻を選びました。日本語を学ぶということはとても楽しいことだと思いました。日本語の勉強は「あいうえお」から学び始め、現在までに、日本語能力試験1級に合格しました。日本語を勉強するため、日本の新聞、雑誌やドラマなどを、たくさん見て、ますます日本及び日本文化に興味を持ちました。日本は世界強国で、経済や教育など各方面でも進んでいることも知っていました。日中の経済交流は緊密となっており、この交流はもっと広がると思います。自分も日中の経済発展のために何かやりがいのあることをしたいと思っています。でも、自分の知識はまだまだ不足していると感じました。だからこそ、日本に留学したく、自ら日本文化及び日本の経済を実感し、先進的な知識を得たいと思っています。大学二年生の時に、日本に留学するチャンスに恵まれました。その時、すごく嬉しく感じ、立派な日本語を身につけ、本当の日本文化を実感したいと強く思いました。そのためにもっと頑張らなければならないと思います。札大の入学試験に参加し、合格することが出来て、現在、日本の大学で勉強することが出来ています。これは、すごく幸運なことだと思います。

日本に留学してから今まで、既に一年になりま

す。この一年の中で、日本語及び日本文化に関して、色々なことが勉強になりました。授業の中で、先生は日本の古典文化と現代文化について、色々な知識を教えてくださいました。サークル活動の中で、日本人の真面目さ、積極性を認識しました。アルバイトの中で、日本人と接して、様々な日本の民俗習慣を理解しました。私にとって、日本はすごく住みやすく、大好きなところになりました。なぜなら第一に、日本の環境はどこでもとてもきれいで、非常にいいと思います。第二に、日本人の皆は優しく、すごく親切だと思いました。ルールをちゃんと守って、礼儀正しく、いつも周りの人の気持ちを考えて、とても素晴らしいと思います。しかも、日本は経済発展の程度が高いですが、日本人は日常生活の中で、節約も出来ていて、とても驚きました。日本は中国と距離が近く、文化も似ている点が多いのですが、自分が留学して日本の文化を実感してから、日本は中国にとって貴重な経験や勉強できる点があると思いました。そして、このような日本をもっと中国人に知って欲しい、そして伝えたいと思います。ですから、将来、中国に戻ってからは日本語教師になりたいと思っています。自分自身が身につけた日本語や日本文化、及び日本の色々な民俗習慣などを、日本に興味があって本当の日本を知らない中国人たちに伝えたいです。

今、自分の知識がまだ足りないと思いますが、もっと頑張って今後も勉強していきたいです。そして現在、日本の大学院を受験するため、色々な準備をして勉強しています。毎日の勉強の中で、自分の言語と知識の上達を感じる事が出来て、前進しているという充実感を伴いつつ、自分の可能性が無限に広がっていくことを信じています。自分の目標を実現するために、これからもずっと頑張りたいと思います。



田 雁 竹

北海道大学大学院水産科学院
応用生命科学科修士1年
24歳

日本に来たときはまだ17歳です。当時は高校3年生だったのです。私の高校は日本の宮崎にある日章学園とは姉妹校の連携で、高校に入ったとき、日本への留学はもう決まりました。日本に来た後、日本語学校に1年間通い、北海道大学水産学部で学位をとり、現在は修士1年目です。計算すると、日本にいる時間はすでに5年経ちました。そこで、5年間の生活を振り返り、日本への留学目的について述べたいと思います。

日本に来る切っ掛けとしてはお母さんからの提案です。両親は農村からの出身で無一文から自営業を起こしました。うちはお金または権利がない家庭です。それで、お母さんは私を海外に出し、海外で、一人で生活できる、将来の生存もできる技術を学んで欲しいという考え方です。そのときは母の意見を認めました。周りの親戚を見て、大学を卒業してもなかなかいい仕事を見つけられない人が多かったので、留学するなら早めのほうがいいと思い、高校卒業する前に日本に来ました。

今までの5年間の生活を思い出したら、そのときの決定が正しいと思っています。今の私は一人で海外でもいけます。ご飯も作れます、アルバイトもできます。両親がいなくても、自分の両手で生活できるようになりました。つまり、留学の第一目的「一人前」は達したと思います。

留学したらなぜ日本がいいのかという疑問はいろんな人があるかもしれないが、その答えはすごく簡単です。アメリカは日本人の中の存在と日本は中国人中の位置ほぼ同じだからです。日本の製品がいい、日本人は真面目、こういうのを含めていろんな情報収集をして日本に来ました。日本で高度な技術を学びたいです。理科生として、たと

え大学を卒業しても基本的な研究方法、研究の思考方法など見つければよいと思っています。

そのときに日本で学ぶ技術は長寿と関連するもののがいいと思いました。日本は地理の影響で水産物が豊富で海の魚を食べるのは当たり前なことと思う人が多いと思います。私の故郷、長春は内陸であり、川の魚しか食べたことがないです。それで、日本人の長寿なる原因は海の魚を食べているからだとは当時思いました。海産物の中には健康にいい成分は絶対含まれていると思い、水産学部、科学院に入りました。私の夢は海の魚を食べなくても、それと同じ成分が含まれるサプリメントなど開発し、内陸の人たちに海の栄養を味わわせたいことです。それで今は北海道大学水産科学院で、海産物に含まれている機能成分DPAの生体内代謝および機能性を研究しています。日本で学んだものを使い、将来、両親に恩返し、日本と中国の架け橋になりたいと思っています。



張 嘉 航

北海道教育大学大学院
教育研究科修士2年
24歳

私は日本に留学するのは二回目です。

一回目は、大学三年生の時、北海道教育大学で一年間の交換留学をしたことです。その時、留学の目的は日本の文化を理解することです。日本語専門の私にとって、日本語を勉強することは言語のみならず、日本という国の文化を知ることです。言語は大学で勉強することができますが、文化はいくら本を読んでもわかるものではありません。百聞は一見に如かず、自分の肌で感じないとわからないことが多いです。

その一年間の交換留学生活により、多様な考え方に触れることができます。自立心も養えました。そして、日本人の友達ができ、日本人の考え方が

もっと理解できます。日本人は誰でも花と聞くと頭の中に桜を浮かべている。桜はパッと咲いてパッと散る、咲くときも一緒、散り方も美しい。一輪一輪の花はこれといった特徴はなく、目立たないが、樹全体、林全体の花となると圧倒されるような華麗さと迫力がある。日本人は協力のチームワークを崇拜し、人と人との間に互いに援助し、互いに協力しあい、互いに団結している。一人一人の個性はないが、集団では大きな力を発揮するといふのである。日本が戦後わずか二、三十年の間に、世界第二位の経済大国になった。その奇跡的な飛躍を成し遂げる一つの原因は日本人の集団意識にあった。授業では、日本人の集団不滅信仰と「小我を捨てて大我に生きる」という集団意識を勉強したことがあります。勉強すればするほど、日本精神について興味深くなっていきます。それで、今回の留学を決めました。

今回の留学の目的は、大学院レベルの専門知識を学び、卒業したら、しばらく日本の会社に就職し、経験を積み上げ、日本人の社会関係を肌で感じながら、その集団意識をもっと理解しようと思いません。

中国と日本一衣帯水の友好隣国であり、世界経済一体化にしたがって、中日両国は各分野においても協力しあっている。将来、帰国したら、日系企業や日本と関係の深い会社に貢献し、両国の経済発展と友好関係に自分の全力を尽くしたいです。



張 楽 樺

北海道大学大学院生命科学院
生命システム科学コース修士1年
24歳

中国の大学で薬学を専門として勉強し、日本の薬学も少し勉強したことがあった。三年生の時、一か月間日本へ研修旅行にいき、初めて国際交流というものを体験して、中国の医学や薬学が進歩

するには国際レベルでの交流が必要だと感じ、それならば、経験のある日本に留学しようと考えてきた。

私は薬学を専門に勉強してきたが、基礎科学あつての専門科学だということも意識し、基礎科学も勉強してきた。そして、基礎研究を進めていくにつれて、ヒトの生命機能の解明は、新薬の開発にも役に立つのではないだろうかと考えるようになり、生命科学の専門分野に進学することを決めた。

また、去年は日本の医薬品、健康食品が中国で人気があることを知り、なぜ日本の商品は魅力的なのか？その謎を解くため、日本語学校に通いながら、半年間、ドラッグストアでアルバイトをした。そこでは、商品の品質がよいのはもちろん、店員が客の要求に対して、とても丁寧に対応していた。つまり、品質と、外国人とうまくコミュニケーションができるということが、日本の商品を魅力的にしているということが分かった。更に、今日本は国際化しつつある。労働力不足を解決するために、積極的に外国人労働者を受け入れるのも一つの方法として挙げられている。この経験を通して、自分は外国人として、何かできることがあるのではないだろうかというものも感じた。

私は将来、教員になりたい。そのために、まずは大学院で、生命科学院の様々な専門知識と研究能力を身に付け、一人前の研究者になり、更に、学生生活では、積極的に様々な人と交流し、自分の視野を広げ、自由な発想と実践力を身に付けていきたいと思う。

現在、大学院に進学して、自分の研究に専念するため、アルバイトができないが、日本に在る間に、できる限りいろいろ体験したいと思う。日本の文化を理解しながら、中国の文化の魅力も周りの人に伝え、帰国後は、この貴重な留学体験を活かし、自分の夢を追いかけながら、周りの若い人にもいろいろアドバイスをして、日本と母国との架け橋になりたい。

北海道短期研修レポート

人生初めて、充実、感動、感謝

浙江商工大学日本語学科
周 孝 誠

約80年前に、日本の作家川端康成は『雪国』という小説を発表した。小説の冒頭に書いた言葉「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」は世界に知られる名言となっている。『雪国』を読んだことのない私はずっと雪国は日本の北海道を指すと勘違いした。雪国が新潟県にあるという真実を知ったのはここについてからの話。しかし、川端康成の小説『雪国』の地理上の位置が新潟県であろうと、ほかのどこかであろうと、北海道、特にこの季節の北海道は雪の国、雪の世界だと言ったら、誰も反対しないだろうと思う。

知らず知らずのうちに、私はこの真っ白の世界——北海道に足を踏み入れた。きっかけは去年九月に大学で行なわれた日本語スピーチコンテストだった。優勝した二人が北海道日中経済友好協会からのご褒美——北海道で二週間の企業研修をいただけることとなっていた。スピーチのテーマは「日本語を学ぶ理由」。一見して簡単のようだが、なかなかうまくまとめられない、まとめられても短い時間で言い尽くせないテーマだった。私は全力で準備して、自分の心の中で考えたことを最大限に掘り出して、スピーチコンテストに参加した。努力が報われたように、二位を獲得し、今回の北海道短期企業研修の招待をいただいたのだ。

こんなにお世話になるとは思わなかった。毎日違う会社かどこかの場所に行って、違う人と出会い、一日中、たっぷりお世話になった後、お別れをし、次の日また新しい人と出会う。見ることは毎日変わり、途中疲れたりはするが、いつも優しく面倒を見てくださる皆様のことを考えると、こちら側も負けないように、最後まで頑張るつもりだ。今振り返れば、充実した多彩な毎日を作ってくださいる皆様に感謝しなければならな

い。最初はこの研修レポートに今までの日々を重点的に書くつもりだったが、やはり毎日お世話ばかりになっていて、一日だけでも漏らしたら、あの日に色々お世話して下さった人々に失敬するので、これから恐縮だが、長たらしい文章を書かせていただく。

2016年1月16日(土)上海→札幌 東京時間12時頃無事に札幌市に着いた。迎えに来てくださったのは協会の吉田事務局長と加藤さん。札幌ラーメンをご馳走して下さった。市内まで送って下さって、ホテルのチェックインが終わってからすぐキャリアバンクという会社で、これからの研修についてのオリエンテーションに入った。頭の中はまだ目の前の白い世界に対する興奮に溢れている。何となく分かった感じで、次は夕食時間となる。場所は日本で最初に立ち上げられたビールの工場という前身を持つサッポロビール園。歴史のある古い場所で、最初に食べたのは羊の肉だった。羊の肉は日本全国で北海道でしかほとんど食べられていないという話も聞いた。やはりこの北の大地には、日本のほかの県と違い、独特な所があるのだと思った。歓迎夕食会だから、食事中これから世話して下さる皆様とお酒を飲みながら歓談した。



1月17日(日) 厳しい研修の前の楽な旅行だった。佐藤専務理事と吉田事務局長が車で一日の楽しい観光サービスをしてくださった。定山溪、洞爺湖、ニセコ、小樽…できるだけ多くの場所まで連れて行って、その景色を私に見てもらいたい、というお二人の優しい気持ちを私はしみじみと感じた。



1月18日(月) また充実した一日だった。違うのは今回は遊びではなく、本格的な企業研修だった。スーツの格好でSATO社会保険労務士事務所へ行った。一日に頭の中に情報がいっぱい入ってきた。まず朝の佐藤代表の話が深く印象に残っている。映画『ショーシャンクの空に』を例として夢や目標(あるいは人生設計)が大事だということを説明してくださった。また、社会に入ると、いままでの学生専用エスカレーターが階段となり、上がったたり、下がったり、急いだり、ぐずぐずしたりするのは全部自分次第(いわゆる自由)という話も耳について離れない。その後日本の企業、保険制度、給与などについてもある程度佐々木常務から教えていただいた。詳しい内容は省略させていただく。

1月19日(火) 今日の研修先は池田食品株式会社。最初は皆さんの揃っている真っ白な制服やマスクといった格好に驚いた。次は皆さんと同じ格好に着替えて厳しい研修に入った。午前の3時間は検品作業で、午後の4時間は「検品+受取」作業だった。外から工場に入る手洗いやアルコール消毒などのルールは絶対に守ること。日本の食品会社の衛生に対する厳しさに驚いたほか、約7時間の肉体労働にも印象深い。終わった後の感想文に「多分今度お菓子を見たら、それらをいままでよ

りもっと大切にしたい、ありがたい、という気持ちになるだろう」と書いた。

1月20日(水) 今日行ったのはキャリアバンクという人材派遣会社だった。これも前のSATO社労事と同じくSATO GROUPのグループ企業の一つだ。前回SATO GROUPについて全体的な紹介を聞いたなら、初めて佐藤専務理事がこんなにすごい、偉い人であることに気付いたのだ。また、代表と社長であるこの方が2日目の17日に丸一日を空けて、あちこち連れて行ってくださったことに深く感謝する。勿論、吉田事務局長にも同じだけ謝意を表したい。今日の研修を通して、人材派遣会社に対するアウトラインが少し分かるようになった。

1月21日(木)、22日(金)

この二日間は札幌ばんけい株式会社のばんけいスキー場へ行った。人生初めて雪山に登り、そのスキー場を見学した。



21日にスキー場のリフト、レンタルなどを見て説明してもらった後、次の日の22日に、本格的なスキーを体験した。ブレーキの作り方、滑り方などを学んだ後は…頂上から山麓まで滑った。優しいスキーのコーチがいてくれたのに、二回転んでしまった。楽しい気持ちを持って、上の親会社の東原社長にお会いした。いきなり中国人観光客のマナー問題や中日両国の歴史問題などの話だが、両国がこれからどんどん仲良くなってほしいという東原社長の気持ちがよく分かった。



1月23日(土) 地下鉄で真駒内についたら、椿先生が迎えに来てくださった。先生の車に乗るな

がら、先生から定山溪と豊平川の話聞いた。もしも目の前の綺麗な景色がまだ人を感動させなかったとすれば、その上に美しく古い伝説を加えれば、人は必ず感動する。美泉定山と定山溪、河童と豊平川、この二つの物語が私にこの二つの場所の名前を永遠に覚えさせたのだ。車を降りて、瑞苑というホテルにつき、そこで椿先生からいろいろなマナーを教えていただいた。夜の食事は中田会長たち協会関係者だけでなく、途中佐藤専務理事の奥様もわざわざ遠くから来てくださって感動した。



1月24日(日) 今朝ホテルからチェックアウトする前に露天風呂に入った。人生初めての露天風呂で、しかも雪の世界の中の露天風呂に興奮と感動が入り混じった、で表せない気持ちだった。午後からはホームステイ体験で、これも人生初めてだった。お昼にお母さん(奥さん)の手料理—スパゲッティをご馳走になった。そして夜は嶋田夫妻お二人と一緒に藻岩山の頂上に登り、綺麗な札幌夜景を見た。天候に恵まれて、明るい月が空に高くかかっている。上は満月で、下は札幌市の輝く家々の灯火。夜の頂上のマイナス10度さえ自分の感動を抑えられなかった。



1月25日(月) 今日の日程は旭山動物園へ行くこと。朝のまだ早い時にお母さんが美味しい朝ごはんを作ってくれた。食べ終わって出発する時に昼間のおにぎりまでも用意してくれた。玄関に立ち、本当は普段日本人がよく言う「いってきまーす」を言いたかったが、ホームステイが今日で終わりで、行ってから帰りはしないということに悲しく感じた。「嶋田家のお父さんお母さん、短い間ですが、お世話になりました」とお別れの時に心からそう言った。

湿った気持ちを落ち着かせて、JRの特急で旭川市の旭山動物園へ向かった。園内には不器用でしかし可愛いペンギン、攻撃的に見えるが、実際、やっぱり活発で元気な白熊、雪を食べている猿、仲睦まじい雪豹夫婦…ほとんどすべての動物が至近距離観察できる。多分これこそこの動物園が人気のある理由だろうと思った。



1月26日(火) 今日の昼間は物流事業の視察研修で、札幌通運株式会社へ行った。近年、中国ではネットショッピングが発展するにつれて、物流という概念もよく知られてきた。しかし物流会社の内部に入り、更に倉庫を見るのは学生である私にとって珍しいチャンスだった。また、物流会社の倉庫は取引先の会社の仮の倉庫となり、注文された向こうの商品を直接に物流会社から出荷する、という話も興味深い。研修が終わった後、同行の大澤部長はいろいろな特色のある所へ連れて行ってくださった。白い恋人パーク、大倉山のジャ



ンプ台、夜の薄野街…この方と一緒にいる時間は今日の昼間だけで、限られた時間の中にできる

だけ多くの面白い場所へ連れて行く、という気持ちで、彼のほうからまた感じたのだ。夜は駐札幌中国総領事館の方も出席する新年交流会。その場で前の私のスピーチを改めて発表した。前回ほど完璧ではなかったが、日本で、多くの日本人のに向けて、日本語でスピーチすること自体に意味があると思う。

一先ず宴会が終わり、お客さんが帰っていった。夜のとぼりの下で、佐藤専務理事は自ら車で送ってくださった。途中、車の中で私は今日までの研修の中で最も困ったことを伝えた。それは将来何をするという困惑。今まで一番多く聞かれていた質問は：

「周さんは将来何をしますの?」

大学四年生で、卒業が目の前に迫るといふ私は卒業して何をするという事さえ知らない。こんな駄目な自分を責めながら、卒業までに人生の夢や目標を見つけた人を羨んで来た。とはいえ、そんなにはやく自分を正しく評価し、さらに人生の目標を見つけ、それに向けて迷わずにまっすぐ行く人はほとんどいないだろうと思う。だから前の質問が来る度に私は困る。困りながらも、誰も教えてくれない、自分でしか見つけられないと思う。適当に就職するか、いっその事自分で起業するか、一体どういう人生がほしいか…といったいろいろな厄介な問題に包まれている自分は、一步一步前にゆっくりと進みながら、しっかり考えるほかにないと、車を降りた時に私はそう意識した。

1月27日(水) 今日の研修内容は日本の小売業。サッポロドラッグストア人事部の金澤さんか

ら、日本の小売業の背景知識を教えていただいた後、市内のいろいろなドラッグストアとスーパーへ連れて行っていただいた。最初の背景知識のキーワードは“商圈”。周りの人口数が商売の内容、規模を決める。そして各店を回る時に、狸小路のある店にほかの中国人たちの“爆買”を目撃…また、この爆買に応じて、日本にまで触手を伸ばしている中国の物流会社である“顺丰”の影も見た。さすが我が同胞の中国人だ。一方、海外へ赴き、その国に見せるのは決してちゃらちゃらした姿でなく、お金とマナーを兼ね備えた姿だと思う。



1月28日(木) 光陰矢の如し。今日は研修の最終日だった。午前は株式会社財界さっぽろを訪れた。舟本社長から北海道の開拓史をいろいろ教えていただいた。何も無い不毛の地から、今の栄えている光景になったのはつい150年前の話。野蛮と文明の衝突の中で、流血も避けられない。にもかかわらず、風、林、水、菜といった4大資産に恵まれているこの大地は、大きな包容力で矛盾を取り除き、今の繁栄を見せている。舟本社長がこの不屈のフロンティア精神を持っている北の大地の話の話をゆっくりと語ってくださった。研修が終わる時にこんなに有意義な“授業”を受けるとは思わなかった。これで北海道という名前を巡る歴史や文化などのすべては、疑いなく私の頭に消そうとしても消せないほど深く刻まれた。

おわりに

北海道での研修滞在時間は残り僅か一日。大学の卒論の発表が終わってからすぐ日本の雪国——北海道に来て、それ以来びっしりと入っているスケジュールに従って情報量の多い、充実した毎日

を送っている。そう考えれば、すべては不思議な夢のようだった。日本語こそ私をここまで辿りつかせてくれたのだ。中日両国の渦巻に身を置き、長い歴史を通り抜け、視線を未来に向ける姿。日本語こそ自分一生も辿りつけない高さまで連れてきてくれて、私の人生も初めて、こんなに激しくて多彩になっている。

最後にもう一言を申し上げたい。いままで大変お世話になりました。ここで企業研修を通して

いろいろな知識を学んだほかに、人生初めての、一生忘れない思い出もいっぱい作りました。優しい皆のおかげで、充実した楽しい二週間の研修を送りました。今回の二週間の研修はきっと私の未来の人生の役に立つと確信しております。北海道日中経済友好協会の皆様に感謝を申し上げます。また、研修させていただいた各会社の皆様にも感謝を申し上げます。

北海道、この北の“雪国”を大好きになりました！

研修風景

